

## 課題：タデ藍農家の支援とタデ藍栽培の振興

### ねらい

阿波藍は徳島の伝統工芸品で、その染色原料はタデ藍から生産されています。しかし、タデ藍栽培は農家の高齢化と収穫が重労働なため、栽培面積が減少しています。これに伴い、旧来の使用用途である高級染色原料「すくも」、新規用途である木材染色や皮染色原料へのタデ藍の供給がいきなくなっています。以上のことより、収穫作業の負荷軽減を目指し、機械収穫に適した品種「干本」の活用と他作物収穫機の流用を検討し、機械収穫体系を実現します。併せて、除草作業の省力化をはかり省力栽培体系を検討し、栽培技術の周知を行います。これらにより、タデ藍の作付け面積の拡大を図り、旧来用途、新規用途ともに十分な原料供給を実現していきます。

### 活動地域・対象

活動地域：県下全域（板野郡、海陽町が中心）、対象：生産農家および藍利用企業等

### 普及活動の目標

- 機械収穫の普及（他作物収穫機の活用）。
- 除草作業の省力化。
- 栽培面積が平成18年度と同様の20haとなり、旧来用途、新規用途ともに十分な原料供給が可能になること。

### 目標に向けた活動概要

- 1) 機械収穫に適した品種「干本」と他作物用収穫機の実証、展示。
- 2) 除草作業の省力化のための技術展示（麦のリビングマルチ）
- 3) 生産振興のための会議の開催（新規用途開発と原料供給に関する研究プロジェクトチーム会）
- 4) タデ藍栽培講習会（新規生産者向け）
- 5) 情報収集：産地視察と有識者への意見聴取
- 6) タデ藍栽培マニュアルの作成



展示圃の様子

## 普及活動の成果

1) 機械収穫に適した品種「千本」と他作物用収穫機の実証、展示。

①立性のため機械収穫に適し、色素含量も高い、品種「千本」が4.2ha普及しました。

②大麦若葉刈り取り機は、新規用途用に栽培する生産者に普及する可能性があります。

また、加工用野菜収穫機と歩行型ロータリーモアは、株元からスムーズに刈り取ることができ、旧来用途のために栽培している藍師に普及する可能性があります。

大麦若葉刈り取り機



加工用野菜収穫機



歩行型ロータリーモア



2) 除草作業の省力化のための技術展示：麦のリビングマルチは抑草効果があり、肥培管理も慣行栽培と同様に行えばよいことがわかりました。

3) 生産振興のための会議の開催、4) タデ藍栽培講習会：これらの会議を通じて、本年度の成果と藍栽培技術について周知した結果、来年度、新規に栽培する生産者が増えました。

5) 情報収集：他県での利用方法や栽培の問題点の情報が得られました。

6) タデ藍栽培マニュアルの作成：栽培振興に役立ちました。特に来年度栽培予定の新規生産者にタデ藍栽培への理解が深まりました。

用語 旧来用途：高級な着物等を染めるためのすくもに用いる。

説明 新規用途：木材染色や皮染色、食品利用などの新しい分野での用途。

すくも：タデ藍の乾燥葉を堆積、堆肥状にした染色原料。徳島県の伝統工芸品

## 今後の発展方向

・それぞれの収穫機の問題点が明らかになったので、今後、生産者圃場で評価してもらいます。また、簡易な改良を機械メーカーに要望していきます。

・除草作業の省力化は、除草剤の農薬登録の要望が多かったので検討していきます。

## 関係者からの声

徳島県のブランドであるタデ藍の栽培面積を減らさないために、作業性改善の取り組みを続けてほしいとの意見をいただいています。

## 農林水産総合技術支援センター高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922